■テーマ展　大坂の陣400年「彦根藩士たちの大坂夏の陣」展示リスト■

| No. | 指定 | 名称 | 年代 | 所蔵 | 形態 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **1　彦根藩と大坂夏の陣** | | | | | | |
| 1 | | 井伊直孝画像（いい なおたかがぞう） | 江戸時代 | 清涼寺 | 掛軸 | 大坂冬・夏の陣に井伊家家臣団を率い参戦した、井伊直孝の肖像画。 |
| 2 | | 紙采配（かみさいはい） | 桃山時代 | 当館（井伊家伝来資料） | 采配 | 井伊直政から直孝に伝わり、冬の陣の際に家臣の三浦泰久に遣わされた采配。 |
| 3 | 市指定 | 文庫金銀取出証文（ぶんこ きんぎんとりだし しょうもん） | 慶長19年<br>(1614)10月24日 | 当館（木俣清左衛門家文書） | 状 | 大坂の陣前、文庫に収めた金銀を取り出した際の証文。 |
| 4 | | 朱地井桁紋籏印（しゅじいげたもんはたじるし） | 桃山時代 | 当館（井伊家伝来資料） | 旗印 | 大坂冬の陣で用いられたとする旗印。 |
| 5 | | 金箔押蠅取形馬印（きんぱくおしはえとりなりうまじるし） | 江戸時代 | 当館（井伊家伝来資料） | 馬印 | 馬印とは、合戦において大将の馬側に立て、その居場所を知らせるもの。本作品は大坂の陣所用の馬印を写したものと伝わる。 |
| 6 | | 若江合戦図（大坂夏の陣図）（わかえかっせんず おおさかなつ じんず） | 江戸時代後期 | 当館（井伊家伝来資料） | 屏風 | **【別紙写真解説参照】** |
| 7 | 重文 | 慶長七年分限帳等写（けいちょうななねんぶげんちょうとううつし） | 江戸時代 | 当館（彦根藩井伊家文書） | 冊子 | 大坂の陣に参戦した藩士たちの人名などを書き写した冊子。 |
| 8 | 重文 | 大坂御陣備行列之次第（おおさかおじんそなえぎょうれつのしだい） | 江戸時代 | 当館（彦根藩井伊家文書） | 冊子 | 大坂の陣の際の井伊家部隊の行列について記した冊子。行列における藩士達の順序を、人名を列記し示す。 |
| 9 | 重文 | 大坂夏の陣図（おおさかなつ じんず） | 江戸時代 | 当館（彦根藩井伊家文書） | 鋪 | 大坂夏の陣における徳川方諸隊の布陣図。 |
| **2　藩士たちの奮戦** | | | | | | |
| 10 | | 井伊年譜（いいねんぷ） | 江戸時代 | 当館（井伊家伝来典籍） | 冊子 | 彦根藩の歴史を記した冊子。彦根藩士・八田金十郎が活躍する様子を記す。 |
| 11 | | 脇指　無銘　伝備前則光（わきざし むめい でんびぜん のりみつ）<br>（八田金十郎所用）（はったきんじゅうろう しょよう） | 室町時代 | 当館（井伊家伝来資料） | 刀 | **【別紙写真解説参照】** |
| 12 | | 大鳥居彦三郎起請文前書（おおとりいひこさぶろうきしょうもんまえがき） | 慶長20年(1615) | 個人（大鳥居彦三郎家文書） | 状 | **【別紙写真解説参照】** |

| No. | 指定 | 名称 | 年代 | 所蔵 | 形態 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | | 三枚張兜鉢（伝牟礼孫兵衛所用） | 桃山時代 | 個人 | 兜 | 大鳥居彦三郎が討ち取った、敵方武将の牟礼孫兵衛所用の兜。 |
| 14 | 市指定 | 城昌茂書状 | 慶長19年<br>(1614)12月5日 | 当館（木俣清左衛門家文書） | 状 | 徳川家康家臣の城昌茂が、大坂冬の陣で負傷した彦根藩士木俣清左衛門へ出した見舞いの手紙。 |
| 15 | 市指定 | 井伊氏家伝書 | 江戸時代 | 当館（木俣清左衛門家文書） | 冊子 | 大坂の冬・夏両陣の井伊家の事績を、木俣家でまとめたもの。 |
| 16 | | 岡本半介書状写 | 江戸時代 | 当館（三浦十左衛門家文書） | 状 | 彦根藩士岡本の手紙。大坂城落城を伝える。 |
| 17 | | 孕石家系図 | 江戸時代 | 個人（孕石備前家文書） | 冊子 | 孕石家代々の系図。藩士孕石備前は夏の陣で戦死している。 |
| 18 | | 川手主水画像 | 江戸～明治時代 | 個人 | 掛軸 | 川手主水の肖像画。藩士川手主水は夏の陣で戦死している。 |
| 19 | | 大坂夏の陣留書 | 江戸時代 | 個人（孕石備前家文書） | 冊子 | 大坂夏の陣について書き留めた冊子。彦根藩士の討死者一覧を記す。 |
| **３　大坂の陣後の彦根藩** | | | | | | |
| 20 | 重文 | 徳川秀忠領知宛行状写 | 元和元年<br>(1615)11月2日 | 当館（彦根藩井伊家文書） | 状 | 徳川秀忠から井伊直孝へ出された、大坂の陣での功により領知５万石を与える旨の書面の写し。 |

＊「市指定」:彦根市指定文化財、「重文」:国指定重要文化財

## 写　真　解　説

### 1　若江合戦図（大坂夏の陣図）　　１隻　【展示リスト６】

縦 156.9 ㎝　横 361.2 ㎝　江戸時代後期
彦根城博物館蔵（井伊家伝来資料）

慶長 20 年(1615) 5 月 6 日、若江（大阪府東大阪市）において井伊家部隊と豊臣方の木村重成隊が戦った合戦（若江合戦）の様子が描かれます。井伊家部隊が画面左から右に堤を越え、木村重成隊に向け突撃しています。

本作品には、先陣を切る八田金十郎や、敵武将を討ち取らんとする大鳥居彦三郎など、彦根藩士たちの戦場での奮戦が、躍動感をもって描かれています。

### 2　脇指　無銘　伝備前則光（八田金十郎所用）　　１口　【展示リスト 11】

全長 54.4 ㎝　　室町時代　　当館蔵（井伊家伝来資料）

若江合戦において、一番鎗を入れ、敵方武将を討ち取った八田金十郎が所持したと伝える脇指。

若江合戦で八田は一番鎗を入れるとともに、敵武将の山口 左馬助らを討ち取る活躍を見せています。戦場で一番鎗を入れるということは、戦闘初期で状況の分からないまま敵部隊へ単身突入するということであり、抜群の勇猛さを示すものでした。

獅子奮迅の活躍をした八田は、合戦後、徳川家康（一説には秀忠）から直接褒美として黄金と馬を下されています。徳川軍にとっても八田の活躍は非常に大きいものでした。

### 3　大鳥居彦三郎起請文前書　　１点　【展示リスト 12】

縦 31.8 ㎝　横 117.6 ㎝　　慶長 20 年(1615)
個人蔵（大鳥居彦三郎家文書）

彦根藩士の大鳥居彦三郎が、彦根藩家老らに宛てた起請文。起請文とは、自分の言っていることが神仏に誓って偽りでないことを表明する文書のことで、若江合戦において、自身が討ち取った敵武将の牟礼孫兵衛の首を、同じ彦根藩士の日下部善太らに奪われた件について、確かに自身が討ち取ったと証人の存在を挙げて主張しています。

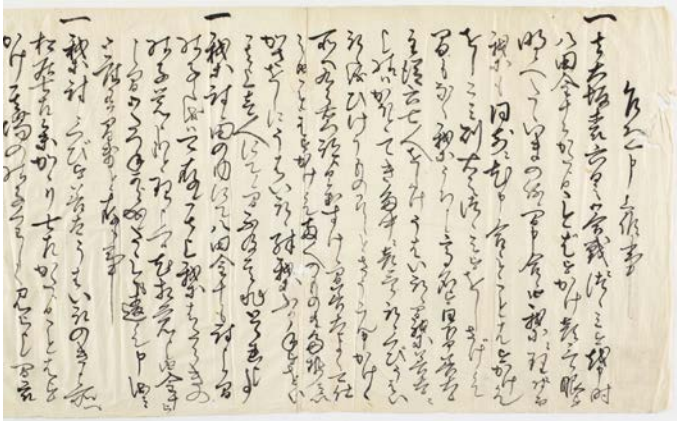
当時の武士にとって、敵を倒すだけでなく、その武功を証明することが非常に大事であったことが読み取れます。

1　若江合戦図（大坂夏の陣図）

先陣を切る八田金十郎

2　脇指　無銘　伝備前則光（八田金十郎所用）

3　大鳥居彦三郎起請文前書



（冒頭部分）